酒々井町

# 郷土研究会会報

第１２７号

平成２０年１月１日
酒々井町郷土研究会
広報部

## 平成二十年の新年を迎えて

会長　岡田　利光

明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、ご健勝にて清々しい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は名勝探訪・七草粥を食べる会及び郷土史講座などを開催し、多くの方々のご参加をいただき有難うございました。また秋には七〇〇名規模の文化庁主唱の大きなイベントのお手伝いをすることが出来て大変感慨深く思っております。

新年度は十二支のトップ子（ね）の年です。歴史の町酒々井を探究し、楽しみながら、郷土の文化の向上にむけてより充実した計画を立て幅広い活動を展開してまいります。役員一同我等が住む町酒々井の郷土史跡の再確認と会員相互の親睦と啓発に向け頑張ってゆきますので、会員の皆様の積極的なご助力をお願い申し上げます。

皆様のご健康をお祈り致します。

## 長福寺閑話

小坂　昭雄

五、同行二人

一生に一度はお参りに行く所と言われる霊場に四国八十八ヶ所があります。現在の幸せと、後生の安泰を願い、或いは心の悩みを背負い、様々な事情により人々は四国に赴き、お遍路さんとなってこの八十八ヶ所を巡礼いたします。一人旅でもお大師様と共に歩くという意味から、笠には「同行二人」と書いています。

この大師信仰は室町時代に各地に普及しますが、四国まで行けない遠隔の地では、菩提寺にそれぞれ大師堂或いは小堂宇を建立して弘法大師をお祀りし、四国に倣って八十八ヶ所の札所を設けたものでありましょう。この札所をまわることによって、とりあえず四国八十八ヶ所の巡礼をやったことにしたのでありましょう。これを大師講又は大師まわりと言います。

当長福寺においても、小堂宇に石像の大師様（座像尺六寸）をお祀りしています。十三番札所と言うことになっております。

大師講は周辺の村々が相談して同一大師堂が重複しないようコースが

## 総会のご案内

郷土研究会の第三十二回定期総会を平成二十年一月二十七日（日）午後一時三十分より中央公民館研修室において開催いたします。会員の皆様、何かとお忙しいことかと存じますが、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

設定されており、酒々井周辺の講社の名称と、範囲を挙げると、印西市・白井市・印旛村・本埜村をまわる印西大師がよく知られております。この他千葉市・四街道市・佐倉市・八千代市をまわる千葉十善講、佐倉市・四街道市をまわる六崎十善講、旧佐原市・旧下総町・旧山武町・多古町・旧大栄町をまわる山武香取十善講等があり、酒々井地区は、成田山を中心に組織され、成田市の南部から旧大栄町・富里市・酒々井町に跨る組織で、十善講護国社中印旛組（通称中印旛組）と呼んでおります。

中印旛組の巡礼は毎年四月に半月程かけて行われます。四月一日に成田山に参集し、不動ヶ岡・日吉倉・川栗、二日は、東和田など遠山地区、三日は中郷地区、四日は野毛平からまた遠山地区、五日は十余三から旧大栄町吉岡新田をまわり駒井野へ、六日は大清水・三里塚を経て富里市根木名、七、八、九日は富里市内の大堀・高野・立沢を経て酒々井町八木野、十日は成田市並木町から再び酒々井町伊篠、十一日は上岩橋から下岩橋を経て宗吾霊堂、十二・十三日は公津地区、十四・十五日が八生地区の上福田・山口そして土屋・寺台を経て、結願寺である成田山に到着します。スケジュールはその年によって多少の変更があります。

酒々井地区の巡礼場所は八木野地区中央の道端の小堂宇に祀られております。伊篠は松雲寺に同じく小堂宇があり、上岩橋は当長福寺（前述の通り）、柏木は新光寺、下岩橋は大仏頂寺の境内にあります。

昔は徒歩以外に交通手段がありませんので、一般の人々は自宅から往復可能な範囲の巡礼でしたが、導師（僧侶）と講社幹部は、その日の最後の札所で前もって連絡してある信者の農家に宿泊します。当家は「大師様がお泊りになる」と大変喜んでもてなしたそうです。今は講社でマイクロバスをチャーターして、巡礼しております。

一方、この集団を迎える札所では接待に大変だったのです。昔の物の乏しい時代は、何処でも混ぜ飯、赤飯等の握り飯でした。一日の巡礼が終わる頃は、ズダ袋（布の手製のリュックサック？）が一杯になり、家で「ジイチャン・バアチャン」の帰りを待っている孫達のお土産になりました。私も妹達と首を長くして祖母の帰りを待ち、最高のおやつとして、握り飯を食べたものでした。

時が流れ、今では握り飯に代わり、菓子類・果実類等になり、すきな人にはお酒も出されます。また金一封を各人に配る所もあるそうです。

今や大師回りは、信仰と娯楽を兼ねた行事と言えるかもしれません。

## 六、結び

寛延の大火による全堂宇の焼失にも拘らず、信仰の的である阿弥陀如来像を無事避難させた先人達に、心から敬意と感謝の意を表すると共に、現在に生きる我々は、これを子々孫々に至るまで承継することを誓うものであります。

（完）

## 六本木方面の探訪

高木　正浩

朝方ザァーと雨が降ってきて今日は心配だなと思いながら家を出ましたが、駅には六本木探訪の期待をこめて大勢の方が集まっていました。

江戸時代毛利家上屋敷だった場所に建つ六本木ヒルズは、二〇〇三年の開業、ショップやレストラン二三〇店舗とオフィス、住宅、ホテル、美術館が集結しています。先ず団体料金一二〇〇円を払って五二階の展望台へ、東京シティビューと呼ぶように東京タワーからお台場、青山霊園、新宿御苑まで東西南北グルリとひと回りゆっくり楽しめました。お天気が良ければ房総半島や箱根まで見えるという森タワーでした。

五三階の森美術館には、スイス生まれのフランス人ル・コルビュジェ展が開かれていて、上野の西洋美術館の建物を手がけた世界でも有数の建築家の創造と軌跡を辿りましたが私にはそのすばらしさがよくわかりませんでした。

レストランで思い思いの昼食をとった後、有栖川宮記念公園へ向ってスタートして朝テレ通りを歩いている途中突然雨が降り出し、雨宿りをして止むのをしばらく待ちましたが、雨は激しくなるばかり、残念ながらここで解散となりました。

ここからめいめい苦労しながら雨の中を帰途に着きました。

いろいろなことが心に残った名勝探訪の一日でした。

## 秋の野草観察会

野草部

九月二十五日(火)本佐倉城跡とその周辺地区で実施しました。

明け方まで雨模様の天候も観察会が始まる頃には良く晴れて、素晴らしい観察日和になりました。

本佐倉城跡の倉跡に、町や根古谷地区の人たちの協力で蒔いたソバが、満開の真っ白な花を見せてくれました。クマノミズキの花柄が飛び散る木陰でソバのお花見をしながら賑やかな昼食を摂りました。

また秋草の中に見つけた千成ホウズキ、ツルニンジンや小さな鈴のような白い玉を付けるスズメウリなど思わぬところで見つかり観察することが出来ました。

下見時に撮影した植物の写真を資料として配布し、参加者の皆さんに喜んでいただいています。

## 芸術の秋を楽しむ

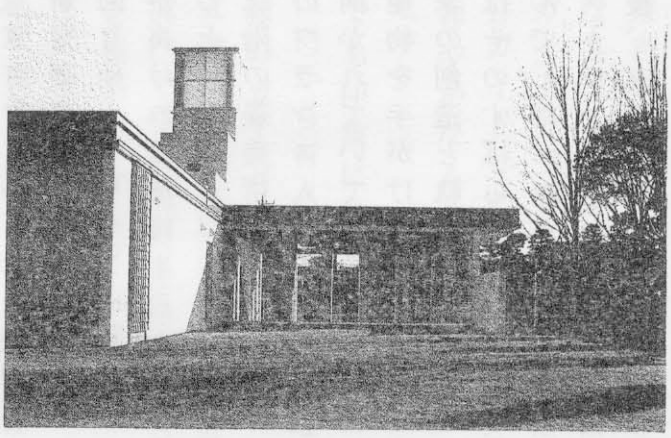
丸山　正義

十一月二十八日、三十二名の参加者を乗せ町バスは九時公民館を出発した。丁度見頃をむかえた樹々の紅葉を愛でながら、野田市のキッコーマン「物知り醤油館」に到着。日本人の食生活に欠かせない醤油、原料は大豆と小麦と食塩、それが発酵という微生物の働きにより、長い時間と複雑な工程を経てはじめて、色・味・香を備えた醤油になることを知り大変勉強になった。

昼食後は近くの、茂木本家十二代七左衛門氏の収集品を展示する「茂木本家美術館」へ。

平成十七年に開館した建物は、周囲の街並みにマッチした瀟洒なたたずまいで、館内は随所にさまざまな工夫が施されていて、展示品と合わせ、建物と庭園が一体となった芸術作品を思わせる。

大山忠作・片岡球子等の日本画・洋画の大家の富士山の絵十三点を並べ



茂木本家美術館

た「富士の間」。梅原隆三郎の「鯛」の絵をはじめ、日本画・彫刻・工芸等こだわりの品々を展示する部屋。収集者の優れた鑑賞眼に圧倒された一刻だった。

帰途、昭和四十六年に流山市から清水公園内に移築され、東関東地方古民家の一典型として重要文化財の指定を受けた、小金牧牧士「旧花野井家住宅」を見学し、午後四時早めの帰着だった。

紅葉の彩り映ゆる大甍
濃く薄く色を競ひし紅葉山
一幅の大和絵なりし庭紅葉

## 酒々井町今昔

川島　俊彦

十六、中川の渡し

昭和四十三年まで中川河岸（現中平橋手前）から印旛郡六合村（ろくごうむら）（現印旛村）の平賀まで渡し舟がありました。平賀の農家の方が四角い「背負いカゴ」で農産物を売りに来たり、通勤、通学に利用した交通手段でした。この写真の一部は「中川青年館」の廊下に展示してあり、また「佐倉市制五十周年記念・写真に見る佐倉」の二〇一頁にも数枚載っていますので御覧いただきたいと思います。

中川の渡し

十七、湧水の話

私の友人である京成駅近くの「うなよし」さんの家はもと川魚屋さんでした。学校の帰りなど寄り道していた庭先の「湧水」（堀抜井戸）が一年中コンクリート枠の井戸から出ていました。私の家の井戸は「中井戸」であり、雨の時だけは「はね釣瓶」で水を汲み上げて家まで、天秤棒で担いでいた時でありましたので、「湧水」はうらやましい次第でした。けれども沼の干拓後は、冬しか水が出なくなったと嘆いていました

十八、伊篠の松並木

五十一号線を東京学館高校入口の手前の信号（旧上岩橋分教場入口）を右へ入るとこの道が旧成田街道です。S字型の細い道路を曲がると東京学館入口の信号ですが、この細い道路も元は定期バス等も走っていました。

ここからは伊篠の松並木です。旧道でして昔は八百メートルの両側に老松がありました。

別名「杢之進並木」と呼ばれ県の指定史跡（昭和四十三年）となっていました。

享保年間佐倉七牧の馬方代官であった小宮山杢之進が当時のお上の命によって植えたと言われています。

小学校時代は砂利道であり定期バスも大崎のＳ字道路から通じて走っていました。

この松も昭和五十六年頃から松喰い虫や自動車の排ガスなどによって枯れてしまい、伐採されました。

枯死前に危険を感じ数が少なくなり始めた頃「水戸黄門」の撮影地にして下さいと放送局へ依頼しましたが、俳優さん達の時間がとれないと云うことで断りの手紙がきました。

とびとびに少なくなっていく老松を記録しておこうと、少ないまでも多少撮れました。

この写真は拙著「アルバムしすい」（酒々井町制施行百周年記念号）に何枚か掲載されていますので、御覧いただければと思います。

成田街道は本田プリモ店前から左の方へ入る細い道が旧道です。

蛇足ですが、黄門光圀が酒々井方面を訪れた時の「甲寅紀行」によりますと伊篠のことは「伊慈野」と書かれているそうです。

## 十九、Ｂ２９の墜落

伊篠区の旧道に小さな十字路があり、右へ曲がるとＪＲの踏切があります。線路を渡って二、三百メートル進んだ辺りに、昭和二十年に空襲にきたＢ２９が墜落しました。

酒々井国民学校（当時）の運動場の上空を左エンジンから火を吹きながら、右にぐるぐる旋回していました。

防空壕の中に入っていた児童に「運動場へ落ちるぞ、首を出すな！皆防空壕へ入っていろ！」と矢村教頭先生が運動場を大声を出しながら走っていました。

Ｂ２９が伊篠の山の中へ落ちたという噂に子供達はそろって見に行きました。機体はバラバラで、部品が散らばっていました。「これ頭蓋骨じゃないのか」という人もいました。

当時日本には食べる物もなく、友軍機は上空では寒いので防弾チョッキの間に電気ヒーターを入れていたのに比べ、Ｂ２９の搭乗員は、Ｙシャツ一枚で周りにはチョコレートが散らばっていました。

多分オーストラリア人とのことですが、女性も乗っていたそうです。

小さいながら「随分日本とアメリカは違いがあるな」と思ったものでした。

（完）

伝　桔梗塚　（将門山）

## 佐倉と酒々井の合同歴史散策

大沢　博

十一月十四日(水)文化財ボランティアガイド佐倉の皆さん二十二名と酒々井町郷土研究会運営委員九名とで大佐倉周辺と本佐倉城跡周辺の合同歴史散策を行いました。

「文化財ボランティアガイド佐倉」の皆さんは、旧堀田邸や武家屋敷を中心に土、日、祝日に交代で駐在しボランティアガイドを行っているとのことです。

散策当日は、良く晴れて絶好の日和となりました。佐倉地区の散策は佐倉ガイドで、酒々井地区の散策は酒々井ガイドでということになり、終始和やかなムードで楽しい一日でした。

中でも印象に残ったのは勝胤寺で、山門から百メートル以上離れた京成線のガードを抜けたところにある五地蔵や延命水までが、当時、寺の境内で千葉氏の菩提寺として、隆盛を極めていた頃の様子が偲ばれるものでした。

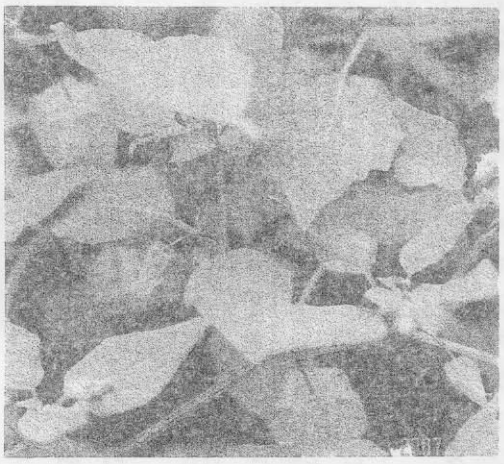
また、境内裏手の土手に安置されている千葉家一族の供養塔のある場所で、奇妙な体験をしました。前を歩いていた三人の女性が供養塔に向かって土手を上り詰めた瞬間、左側の台座に安置されていた無縁仏の墓石が一基「ドタッ」と倒れ「キヤー」と叫び声があがった。一瞬の出来事で先行の人たちは殆ど気づいていなかった。人が訪れても見向かれない無縁仏の怒りと、風化していく歴史の一瞬に遭遇したような気になる出来事でした。

翌日、訪れて静かに合掌し安らかな眠りを祈願しました。

## 《観察メモ》

### 「千成ホウズキ」

昔浅草のほうずき市で売られていたとか、青い実を鈴なりにつけ当時縁起の良い植物と珍重されていたようですが、熟しても色づかず茶色に枯れて落ちてしまうので、見栄えのよい現在の赤く色づくホウズキに変わっていったようです。



会計報告

野田方面（平成19年11月28日）

参加者32名　会費1.500円

収入　1.500×34＝51.000
　　51.000円

支出

昼食代　750×35=26,250
　　26,250円

入場料　600×32=19200
　　19,200円

諸雑費　5,002円

返金　2人分750×2=1,500
　　−1,500円

計　51,952円

51,000−51,952 ＝ −952

952円（研修部会計より補填）

## 郷土研トピックス！

★ 聖徳太子堂　落慶なる

柏木新光寺の聖徳太子堂（3坪）が老朽破損しておりましたがこのほど新築され、聖徳太子像もお化粧して、十一月十一日落慶式が執り行われました。なお聖徳太子像は三十三年ごとにご開帳される秘仏です。

★ 会報一二六号に掲載された下宿の「麻賀多神社山車人形および山車」が平成十九年十月五日、有形民俗文化財（酒々井町文化財保護条例）に指定されました。

★ 十月二十八日、町の行事「歩き・みふれる・歴史の道 in 酒々井」で郷土研運営委員がガイド役を務め、町長より謝辞を頂きました。

★ 十一月十四日、「文化財ボランティアガイド佐倉」の皆さんと本佐倉城跡近辺の史跡を巡り、親睦、交流をはかりました。

★ 公民館より「ふるさとガイド養成講座」の講師を依頼され、会長・副会長が町の歴史について話をしております。

# 見学案内

## 日帰り見学会

小湊方面

一月二十九日（火）
雨天決行

黒潮かおる外房の古社玉前神社と日蓮ゆかりの誕生寺に参拝し今年の開運を祈りたいと思います。

玉前神社は長生郡一宮町にあり、上総国の一宮として、古来より地域の信仰を集めてきた。

社殿は一六八七年に建てられ、大唐破風、流入母屋権現造りで黒漆が塗られている。

誕生寺は鴨川市小湊にあり、日蓮の誕生を記念して、日蓮の弟子の日家が一二七六年に創建したものである。仁王門は一七〇六年に建てられ、県内では最大級のものである。楼上にある般若の彫刻は左甚五郎の作と伝えられている。

## 名勝探訪

芝・増上寺方面

三月十一日（火）
雨天代替三月十二日（水）

増上寺は浄土宗大本山で、上野の寛永寺と並ぶ徳川家の菩提寺として知られ、六人の将軍が埋葬されています。

室町時代の明徳四年（一三九三）の開山以来戦国時代にかけて浄土宗の東国の要として発展し、安土桃山時代徳川家康が関東の地を治めるようになって菩提寺として選ばれました。昭和二十年の戦災によって徳川家の霊廟は残念ながら焼失したが、三門・経蔵・黒門（表門）などは残って昭和四十九年完成の大本堂と共に近代的に整備されました。三門は東京都の最古の建築物で江戸の初期の面影を残す唯一のものとして国指定重要文化財になっています。大殿（大本堂）には本尊阿弥陀如来が祀られ浄土宗の根本道場になっています。

東京タワーでお昼を過ごし、その後愛宕神社・ＮＨＫ放送博物館を訪ねて帰途につきます。

## あとがき

新しい年を迎えて、郷土研究会も三十年代の壮年期に突入し、益々充実を高めてまいりました。

新しく入会する方々も、自分の住む町に思いを寄せ、町の歴史を知りたい心が自然に芽生えられたのでしょう。歴史の堅苦しい勉強でなく、楽しい史実の学習を共に進めていきたいものです。「百聞は一見にしかず」健康な足を保って、見聞を広めましょう。

＜郷土研日誌＞

| 月日 | 活動内容 | 参加者 |
|---|---|---|
| 9. 27 | 会報印刷(126号) | 4 |
| 9. 29 | 会報発送(126号) | 14 |
| 10. 5 | 日帰り見学会(野田方面)申込受付 | 5 |
| 10. 6 | 研究会(千葉氏…最終回) | 12 |
| 10. 16 | 文化財研究会(本佐倉城跡見学) | 11 |
| 10, 24 | 名勝探訪下見(房総風土記の丘方面) | 4 |
| 10. 28 | 町の行事「歩き・み・ふれる歴史の道 in 酒々井」にボランティアとして参加(本佐倉城跡でのガイド 等) | 11 |
| 11. 14 | 「文化財ボランティアガイド佐倉」と交流史跡巡り | 9 |
| 11. 20 | 研修部部会 | 8 |
| 11. 28 | 日帰り見学会(野田方面) | 32 |
| 11. 30 | 運営委員会 | 16 |
| 12. 1 | 史談会 | 8 |
| 12. 5 | 会報編集会議 | 4 |
| 12. 11 | 名勝探訪(房総風土記の丘方面) | 21 |
| 12. 15 | 会報編集会議 | 5 |
| 12. 18 | 会報編集会議 | 4 |
| 12. 21 | 会報編集会議・最終校正 | 5 |

# 郷 土 研 行 事 案 内

平成20年1月～3月

| | | | |
|---|---|---|---|
| 史 談 会 | 1　月<br>休　講 | 2　月<br>休　講 | 3　月<br>1日（土）　13：30<br>中央公民館会議室<br>「和田のむかし」⑪<br>講師：高橋健一先生 |

## 日帰り見学会

「一宮・小湊方面」

1月２９日（火）　町バス利用　雨天決行

定員　３３名　参加費　2,０００円（昼食代を含む）

集合時刻・場所　８：４５　中央公民館前広場

コース　中央公民館―上総一宮・玉前神社―小湊・誕生寺≪昼食≫―中央公民館

16：30頃　帰着予定　（場合によりコースに変更あり）

キャンセル　実施３日前まで、寺本　へご連絡下さい。

≪申込受付≫　1月8日（火）　９：００～１０：００　中央公民館ロビー

【注】*町バスの利用が不可となった場合、本件“日帰り見学会”は中止いたします。*
*中止と決定した場合は、参加申込者にその旨を直接連絡（電話等）いたします。*

## 野草の会

「七草粥を食べる会」

2月１５日(金)　会場　中央公民館講堂（受付　11:00／会食　11:30）

定員　７０名　会費　８００円

申込受付　参加ご希望の方は、最寄りの運営委員にお申込み下さい。
なお、総会当日（1月27日）1階ロビーにても受付ます。

◎ 当日、お手伝いして下さる方は、9:00頃　中央公民館・調理室にお出で下さい。

＊ 問合せ　犬島まで（

## 名勝探訪

「芝・増上寺方面」

3月１１日（火）　雨天代替日　3月１２日（水）

（当日の問合せ　7:00～7:30　寺本まで

参加費　１００円（資料代）

その他　昼食は、東京タワーで各自自由に済ませて下さい。

集合時刻・場所　８：３０　京成酒々井駅・構内改札口前（階段上）

コース　京成酒々井駅―大門駅・・・芝増上寺・・・東京タワー≪自由昼食≫・・・愛宕神社・NHK放送博物館・・・・神谷町駅（東西線＝上野駅乗換）―京成酒々井駅

17:30頃　帰着予定　（場合によりコースに変更あり）

## 第３２回総会

1月２７日（日）　中央公民館研修室（２階）　受付は、１階ロビー

受付　１３：００　開会　１３：３０　年会費　1，000円をご用意下さい。

＜議題＞
- 平成19年度事業報告及び決算の承認について
- 平成20年度事業計画及び予算案について
- その他